

授の山本 豊先生から「乳がん治療はこんなに変わった」と題して、年月とともに変わってきた乳がん治療についてわかりやすくお話しいただきました。

講演の三番目は、熊本大学医学部附属病院がんセンター・外来化学療法センター長の陶山浩一先生から「抗がん剤は怖くない」と題して、抗がん剤をむやみに恐れずにうまく利用していくことが現在の「日本人の二人に一人ががんになる時代」をうまく生き抜くコツになると思われることについて講演をいただきました。

講演の四番目は、熊本大学医学部附属病院緩和ケアセンター特任教授の吉武淳先生から「緩和ケアってなんだろう」と題して、「緩和ケア」が何故大切なのか、何の役に立つのか等についてわかりやすくお話しいただきました。

講演終了後の質疑応答は、あらかじめ寄せられた質問に講演者が答える形で行了しました。約三六〇人の来場者があり、内容を、十二月六日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

第六十三回は、二月四日(日)にホテル熊本テルサにおいて、「歯科口腔外科医療の最前線ーお口の中から全身の健康を見つめ直す!」と題して開催しました。

講演では、司会を肥後医育振興会常任理事の遠藤文夫が務め、座長を熊本大学大学院生命科学部歯科口腔外科学分野教授の中山秀樹先生にお願いしました。口の健康が失われると、全身のさまざま

まな所に悪影響が及びます。中でも、口の中に『口腔がん』ができる、食べた、飲んだり、話したりする行為がうまくいかなくなり、命にかかわる場合があります。本セミナーでは、『歯科口腔外科』領域の最新のトピックや最新の治療法をお伝えし、お口の健康が私たちにとっていかに重要であるかについて解説していただきました。

講演の一番目は、熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科助教の廣末晃之先生から「お口の中と全身の病気の深いつながり」と題して、歯周病を始め、お口と全身の健康の関わりについてわかりやすくお話しいただきました。

講演の二番目は、熊本大学大学院生命科学部歯科口腔外科学分野准教授の吉田遼司先生から「今すぐ始めよう、口腔がん検診!」と題して、口腔がんについてわかりやすく、また、口腔がん検診がいかに重要かについて講演をいただきました。

講演の三番目は、熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科助教の福岡大喜先生から「あごの骨って再生できるの」と題して、骨の移植やインプラント治療など最新の治療法についてお話しいただきました。

講演の四番目は、熊本大学大学院生命科学部歯科口腔外科学分野助教の尾木秀直先生から「口腔ケアがもたらす効果とは」と題して、手術を受ける患者さんや入院患者さん、がん患者さんを例に

あげ、具体的な口腔ケアの効果と重要性について講演をいただきました。

講演終了後の質疑応答は、あらかじめ寄せられた質問に講演者が答える形で行了しました。約二五〇人の来場者があり、内容を、三月二日の熊本日日新聞紙面に掲載しました。

平成二十九年度は、熊本地震の状況を振り返り、課題を明らかにすることで今後の啓発へとつなげるため、四月二十三日(日)にくまもと県民交流館パレアにおいて、「エコノミッククラス症候群と災害時の命と健康を守るために」と題して臨時の肥後医育塾を開催しました。熊本地震血栓栓塞症予防プロジェクトと共同で開催しました。

講演では、司会を肥後医育振興会常任理事の遠藤文夫が務め、座長を九州看護福祉大学看護福祉学部教授の掃本誠治先生及び熊本大学大学院生命科学部心不全先進医療共同研究講座特任准教授の小島 淳先生にお願いしました。

平成二十八年四月十四日、十六日の熊本地震発生後、エコノミッククラス症候群を発症する人が続出し、その予防と啓発の必要性が取りざたされました。本セミナーでは災害時における血栓塞栓症について、医療専門家やタレント、マスコミそれぞれの立場からお話しいただきました。

講演の一番目は、熊本県赤十字血液センター所長・熊本県災害医療コーディネーターの井 清司先生から「みんなで

災害に備えましょうー防災・減災と自助・共助」と題して、一般の人々の災害に対する備えについて講演をいただきました。

講演の二番目は、熊本大学医学部附属病院循環器内科助教の坂本憲治先生から「地震後に備える心血管病ー熊本地震で発生したエコノミッククラス症候群とは」と題して、熊本地震発生後の患者さんの数とその発生の勢いは想像以上で、大きな危機感を感じさせるものだったことから、今後の有事に備えて、病気のメカニズムと予防法について解説いただきました。

講演の三番目は、新潟大学医歯学系呼吸循環外科講師の榛沢和彦先生から「災害後のエコノミッククラス症候群予防のための弾性ストッキングまたは着圧ソックスについて」新潟県中越地震からイタリヤ北部地震、熊本地震までの経験から」と題して、エコノミッククラス症候群を予防するために役立つ弾性ストッキングについて原理と着用したときの静脈血流や静脈の血管太さの変化などの説明、また、新潟県中越地震や東日本大震災から熊本地震まで、十年以上続けてきたエコノミッククラス症候群の予防活動について講演をいただきました。

講演の四番目は、タレントの英太郎氏から「災害時におけるローカル番組の役割とは」と題して、災害時のローカル番組の役割とは何なのか? タレントとして当時は振り返り、どのような気持ちで